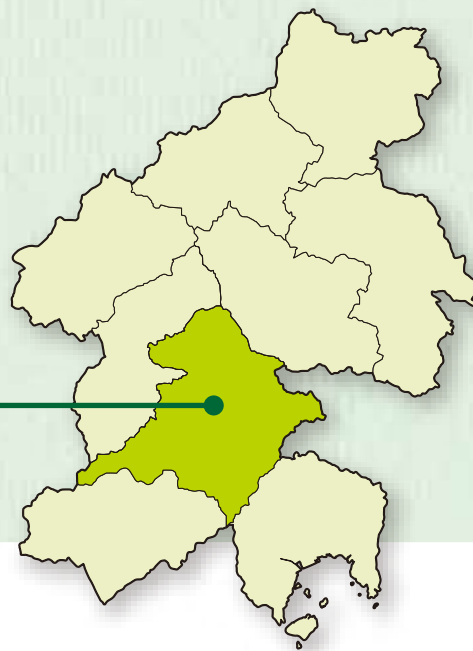


1 西条地域



1 地域の概要

西条地域は、東広島市の中央部に位置し、国分寺が置かれるなど古くから安芸地域の中心地で、西国街道の四日市（現在の西条駅南口周辺）は、江戸時代に宿場町として栄えました。明治期には、米作が盛んな西条盆地の特性を活かし、山陽鉄道の開通を契機として日本酒が盛んに醸造され、今日では灘（神戸市・西宮市）・伏見（京都市）とともに三大銘醸地と称されています。また、本市のまちづくりの起点となった賀茂学園都市建設、産業基盤の拡大をもたらした広島中央テクノポリス建設の中核となる地域であり、広島大学や広島中央サイエンスパーク※¹の建設をはじめ、ブルーパールや下見学生街などの整備により、国際学術研究都市を象徴する機能や施設の集積が進み、本市の活力を牽引する地域となっています。

2 まちづくりにおける現状と課題

市制施行直後の昭和50（1975）年には30,101人であった人口が急増し、西条地域の人口は、現在、約88,500人となっています。人口の増加が続く中、5,400人を超える外国人が生活するなど、国際化が進展する地域となっており、相互理解の取組みや多文化共生に向けた支援・環境づくりが進められています。近年では、西条駅における自由通路の整備、東広島芸術文化ホールくらや美術館の整備など、都市としての機能の向上が続いています。また、市と広島大学が一体となってまちづくりに取り組むTown&Gown構想※²が始まっており、広島大学スマートシティ共創コンソーシアム※³などを通じて、大学や民間企業の知見・技術を活用したまちづくりの取組みが進んでいます。

一方、市の顔となる拠点としての性質を持ちながら、本地域においては魅力的な雇用の場が少なく、若年世代が流出していることや、大学から駅及び市街地等を結ぶ交通ネットワークや、医療提供体制の維持・強化、都市化の進展に伴う保育の供給量の不足、交通渋滞、雨水排水に係る課題等の顕在化、地域コミュニティの希薄化なども課題となっています。

※¹ 広島中央サイエンスパーク：産学協同研究のための広島テクノプラザやひろしま産学共同研究拠点、独立行政法人酒類総合研究所をはじめ、民間の研究施設が建設され、試験・研究機能の集積が進む業務団地。

※² Town&Gown構想：タウン（市）とガウン（大学）が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

※³ 広島大学スマートシティ共創コンソーシアム：持続可能な未来のビジョンを共有する東広島市と広島大学が包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築の上、東広島市の行政資源と広島大学の教育・研究資源を融合しながら活用することで地方創生を実現し、持続的な地域の発展と大学の進化をともに目指す東広島市・広島大学Town&Gown構想の実現に向けて、設置した組織。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

新たなテクノロジーによる次代の創造と
学術・研究・国際化を先導するまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域では、市全体の成長を牽引していくとともに、経済的な豊かさと暮らしやすさにつながる定住環境の充実を両立させ、地域の中だけでなく、対外的にも魅力が伝わるよう、まちづくりに取り組んでいく必要があります。

また、大学と共に取り組むTown&Gownを中心に、民間企業と共創し、新たな価値の創出や国際色豊かな魅力ある都市拠点※4の形成など次世代学園都市構想を推進するとともに、地域の担い手となる若者世代にとって魅力的な雇用の創出や起業の支援、高度医療や産科・小児科も含めた医療提供体制の強化、子育て・教育環境の充実、大屋根広場の整備など魅力ある中心市街地空間の創出、環境と調和した魅力ある居住環境の整備、交流の創造と質の高い暮らしを支える交通基盤の構築と新たな技術の活用等による交通需要マネジメント、今後さらに増加する外国人市民のための生活環境等の整備や多文化共生の促進などにより、都市としての拠点性を向上させていく中で、この地域から次々とイノベーション※5が起こり、内外に幅広く波及していくような、国際学術研究都市の象徴となる施策が必要です。



※4 都市拠点：本市の中核を担う広域的な都市の核となる拠点。

※5 イノベーション：経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション^{※1}の創出

- 大学、研究機関等の集積の活用とともに、企業におけるAI^{※2}/IoT^{※3}の導入支援等により、産業イノベーションの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 道の駅を中心とした地域産品の魅力向上を図ります。
- 産学官連携等による特産品の振興を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 日本酒のまちとして、西条酒蔵通りを中心に魅力ある観光地づくりを推進します。
- 酒まつりをはじめとする観光イベントや、魅力ある芸術・文化・スポーツイベント、マルシェ等の実施により、中心市街地におけるにぎわいを創出します。



東広島イノベーションラボ
ミライノ⁺



日本酒

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 西条駅周辺に多様な都市機能を集積させ、中心市街地の活性化を推進するとともに、コンパクトで機能的な市街地の形成を図ります。
- 下水道等の基盤整備を含む市街地整備事業等により、拠点地区ごとに良好な住環境を形成するとともに、移住・定住の促進に向けた土地利用規制のあり方について検討します。
- レクリエーション及び憩いの場となる東広島運動公園等の整備を推進します。

安全で円滑な生活交通の充実

- 身近な交通道路網となる都市計画道路等の整備を推進します。
- 歩道や自転車道を含め、道路のバリアフリー化を推進し、安全・安心な移動空間の形成を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 留学生、研究者、技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実に努めるとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



中心市街地



東広島運動公園

※1 イノベーション：経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI: Artificial Intelligence の略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT: Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 西条酒蔵通り、安芸国分寺や三ツ城古墳など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



安芸国分寺

活力づくり

項目

施策の方向性

学術研究機能の発揮による都市活力の創出

- 国際的研究拠点の形成に向けた取組みを進め、次世代学園都市構想の実現を目指します。
- 広島大学とのTown&Gown構想※4を推進し、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行うとともに、産学官民連携によるまちづくりを進めます。

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 青少年・学生の力を活かし、交流・連携事業を推進します。
- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 県立賀茂高等学校・県立西条農業高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。

都市成長基盤の強化・充実

- 西条駅前、ブルーパール沿い、西条酒蔵通りを核とし、大屋根広場の整備など、中心市街地にふさわしい都市機能の充実を図るとともに、「歩いて楽しめる」魅力ある都市空間を形成します。

交通ネットワークの強化

- 国道2号西条バイパス、国道375号の4車線化等の整備促進など、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。
- 大学や市街地等から広島空港、東広島駅へのアクセス性向上を図ります。
- ブルーパールにバス高速輸送システムを基軸とした高機能・多機能な交通システムを整備することで、都市の中心にふさわしい交通体系を構築し、活力のある地域づくりに貢献します。

環境に配慮した社会システムの構築

- 広島大学周辺を脱炭素先行地域とし、再エネ電力省エネ設備を導入し、2030年度までに民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出を実質ゼロにします。



広島大学フェニックス国際センター
ミライクリエ



自動運転・隊列走行BRT導入検討

※4 Town&Gown構想:タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 黒瀬川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 都市型災害（浸水対策等）への対策を推進します。

総合的な医療体制の確立

- 高度専門医療の維持・強化、救急医療や産科・小児科医療体制の充実に努めます。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実に努めます。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

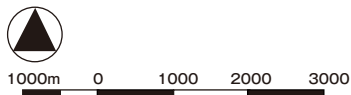
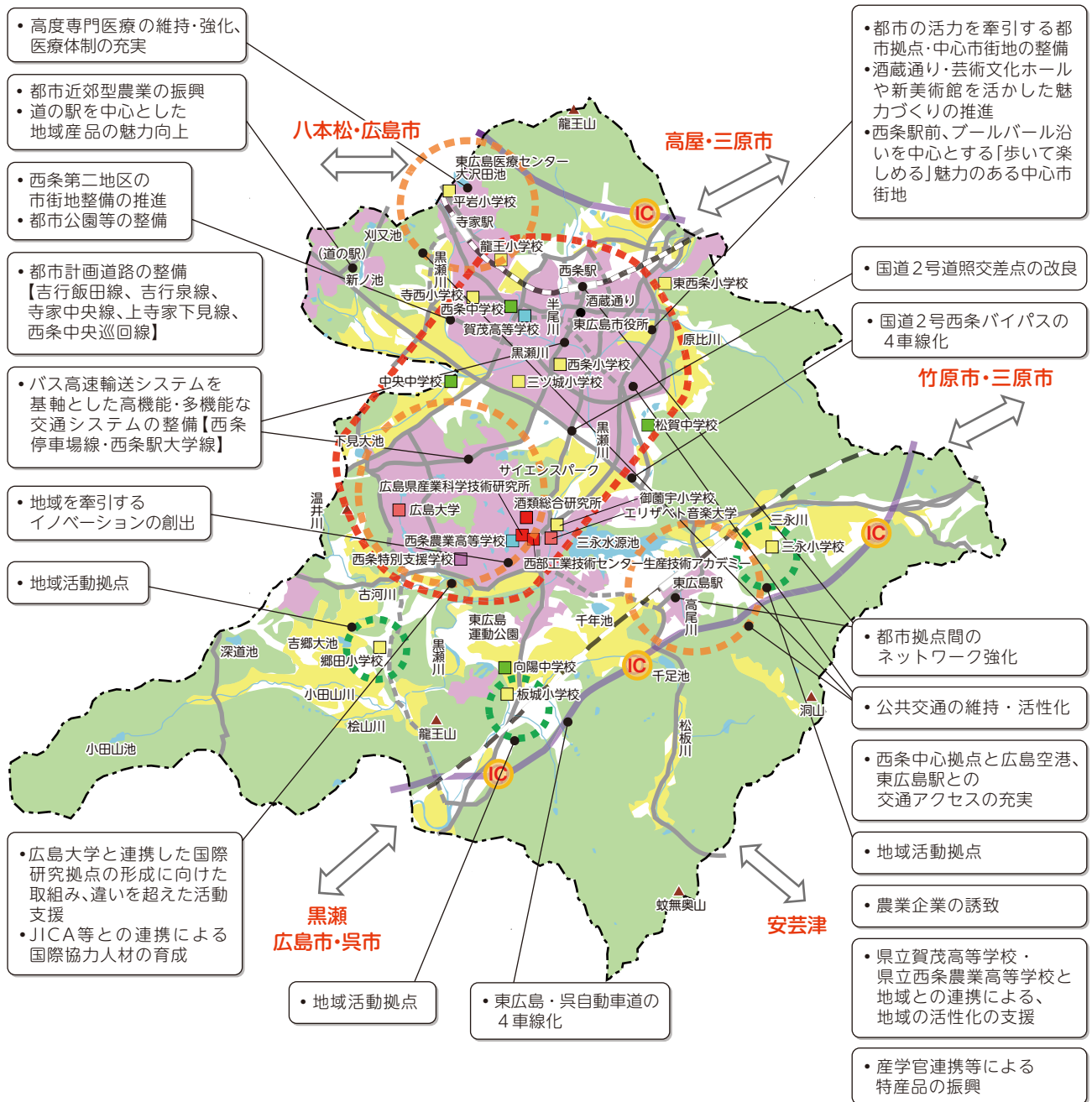
- 保育施設を計画的に整備し、地域のニーズに応じた保育サービスを提供します。
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実に努めます。



東広島医療センター



(3) 構想図



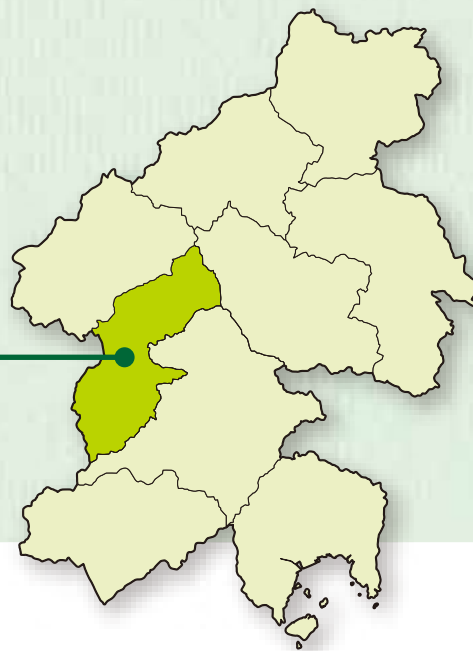
拠点地区	
	都市拠点
	特定機能拠点
	地域活動拠点

凡 例

	山林		小学校
	農用地区域		中学校
	市街化区域、用途地域		高等学校
	主な山		大学
	主な河川		特別支援学校
	主な池等		公的研究機関
	高規格道路		
	主な道路(破線は計画区間)		
	鉄道		

※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

2 八本松地域



1 地域の概要

八本松地域は、東広島市の中西部に位置し、広島市に隣接しています。小倉神社をはじめとする菖蒲あやめの前の伝説に彩られたこの地域は、戦国時代には安芸国の拠点として曾場ヶ城そばがじょう、槌山城つちやまじょうが築かれるなど戦略的にも重要な地域でした。明治期には、山陽鉄道の開通の翌年に八本松駅がおかれ、現在は、八本松駅及び国道486号沿道を中心に住宅地の形成が進み、ロードサイド型の店舗が多く立地しています。地形的には南北に細長い形状となっており、概ね、北部や西部には山林が、南部には農地が広がり、中央部には駅周辺における住宅地のほか、飯田地区、磯松地区などに工業団地が整備されており、吉川地区の工業団地と合わせ、高度な技術を持つ企業が本地域に集積しているほか、米軍や自衛隊の施設が所在しています。

2 まちづくりにおける現状と課題

市制施行直後の昭和50(1975)年に14,816人であった人口は増加を続け、八本松地域の人口は、現在、約29,200人となっています。JR山陽本線等の交通利便性を活かした住宅団地の開発などが進み、発展を遂げてきた地域であり、今後、八本松駅前土地区画整理事業や(仮称)八本松スマートインターチェンジ(以下:(仮称)八本松スマートIC)整備の進展、国道2号東広島バイパス・安芸バイパスの整備に伴い、さらに本市の西の玄関口としての拠点性や、産業面など、市全体の活力を牽引する地域としての期待が高まってくるものと考えられます。加えて、集積している半導体関連の先端技術産業においては大規模な投資が見込まれるなど、国内でも有数の産業拠点となっています。

一方、近年、本地域においては、住宅団地の高齢化や、地域の核である駅周辺地区における商業・医療・福祉・子育てなどの生活利便性機能の集積や、駅と周辺地区等を接続する交通ネットワークの充実が課題となっているほか、駅周辺におけるスプロール状の市街地の拡大や農地の喪失が続く中で、企業の進出や拡張に対する意欲が高い地域でありながら、これに応えることができないといった点が課題となっており、その解決に向けて土地区画整理事業や新たな産業団地の整備に向けた検討などが進んでいます。

また、JR山陽本線沿線では人口が増加しているものの、南部では人口減少が進んでおり、こうした現状に対して、移住の受け皿となる住居の確保に向けた地域住民主体の取組みが動き始めています。

さらには、立地環境の良いエリアに防衛施設が存在するなど、地域全体での機能的な土地利用に制約がある中で、まちづくりを進めなければならないという課題もあります。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

先端産業と田園風景の調和や都市との近接性を
活かした良好な居住環境が整ったまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、これまでに整備した工業団地、住宅団地の蓄積、広島市等の都市部への近接性や、高速道路等の広域的な道路ネットワークからのアクセス性の良さなどを活かすとともに、従来の田園環境と調和したまちづくりや、子育て・教育環境の充実に取り組んでいく必要があります。

また、人口増加地区では基盤整備を進めることで快適な居住環境を整える必要があるほか、人口減少地区では集落の維持に向けた土地利用のあり方の検討・住環境の整備など、各地区の特性に合わせた取り組みが必要です。

加えて、先端企業の更なる投資が継続することが見込まれるなか、半導体産業の集積に向け、投資機運に呼応した産業団地の整備、これらを支える交通基盤の構築、外国人市民のための生活環境等の整備や多文化共生の促進など、次世代学園都市構想の推進に向けたまちづくりを進める必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業におけるAI※2/IoT※3の導入促進等により、産業イノベーションの創出を図ります。

企業の投資促進

- 半導体関連や自動車関連における次世代の先端技術への投資を促進することにより、地域経済の基盤強化を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 集落営農を中心とした収益性の高い米づくりを推進するとともに、農業技術センター等の研究機関と連携し、農業技術の高度化を図ります。
- 地域と連携した森林保全を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 都市との近接性を活かした農泊などの体験型観光や、地域資源を活用した取組みを推進します。



吉川工業団地

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 八本松駅周辺において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の集積により拠点機能の充実を図るとともに、下水道等の基盤整備など市街地整備事業等により良好な住環境を形成します。
- 移住・定住の促進に向けた土地利用規制のあり方について検討するとともに、既存住宅団地の活性化等により、居住環境の向上を図ります。
- 拠点地区における公共施設の再編を促進し、各種サービス機能の充実を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。
- 歩道や自転車道を含め、道路のバリアフリー化を推進し、安全・安心な移動空間の形成を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



土地区画整理事業が進む
八本松駅前

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 菖蒲の前の伝説や大内氏の城など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



魅力ある保育環境づくり

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 吉川地区において住民主体で取り組まれている、地域活動拠点の機能向上に向けた継続的な検討を支援するとともに、移住者の受け入れ活動を支援します。

都市成長基盤の強化・充実

- 国道2号安芸バイパスの整備や(仮称)八本松スマートICの整備等を踏まえ、産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道2号安芸バイパスや国道2号西条バイパスの4車線化の整備促進とともに、(仮称)八本松スマートIC整備及び周辺道路等の整備を促進し、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。
- 八本松駅のターミナル機能の強化及び駅周辺の交通機能の向上を図ります。



国道2号安芸バイパス



(仮称)八本松スマートIC
完成イメージ

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 深堂川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 都市型災害（浸水対策等）への対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

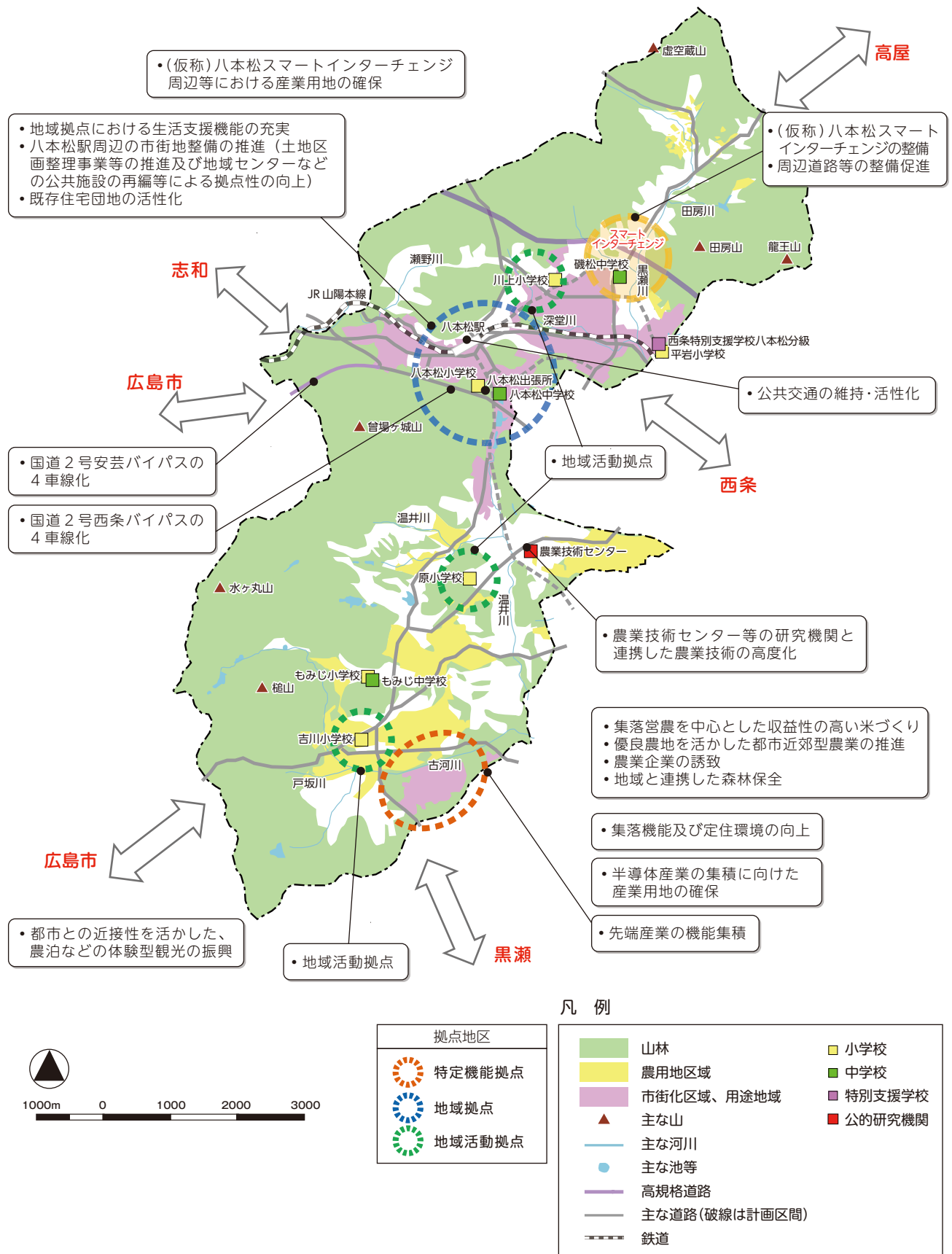
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



地域での防災訓練

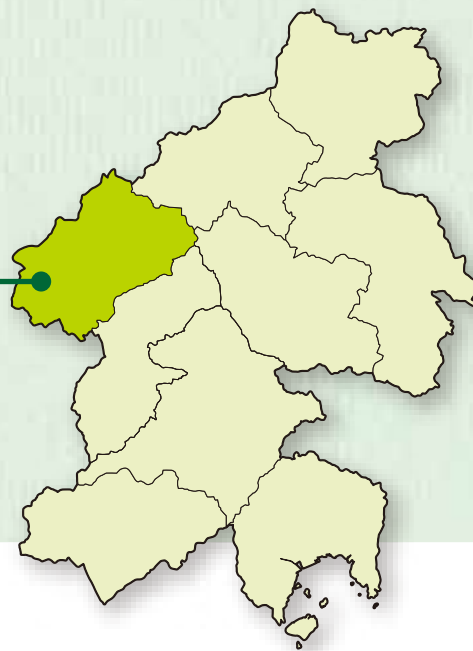


(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

3 志和地域



1 地域の概要

志和地域は、東広島市の中西部に位置し、平安期に志芳庄しわのしょうが置かれ、中世には生城山城おうぎやまじょうなど多くの城が築かれたほか、幕末には、周囲を山々に囲まれた地形を活かし、広島城の隠れ城となる八条原城はちじょうの整備が進められ、戊辰戦争に出陣した神機隊しんきたいの本陣が置かれるなど、広島藩を支える重要な役割を担いました。現在でも、他地域との関係性においては、山陽自動車道、国道2号等を介し、隣接する広島市とのつながりが強い地域となっています。

本地域には、本市でも有数の農業地域が広がっており、山陽自動車道志和インターチェンジ（以下：志和IC）付近の流通団地には流通系企業及び自動車関連企業等が、西志和地区を中心とする地域には、工場等が分散して立地しています。また、主に主要地方道瀬野川福富本郷線及び東広島白木線の沿道を中心に、農地と住宅が混在する集落が形成されているほか、中央部の丘陵地にはゴルフ場が立地するなど、自然を活かしたレクリエーション機能の面でも恵まれた環境を有しています。

2 まちづくりにおける現状と課題

本地域は、平成7（1995）年の8,465人をピークとして、社会増減ではわずかに改善の動きが見受けられるものの、全体として人口の減少傾向が続いており、現在は約6,100人となっています。主要地方道志和インター線などの幹線道路の整備や、志和流通団地等への企業立地、園芸センター等の農業振興施策、ゴルフ場による郊外型レクリエーション機能など、これまでの各種施策や民間投資には地域特性を形成する上で一定の効果があり、国道2号東広島バイパス・安芸バイパスの完成により、地域の強みである広島市へのアクセス性がさらに向上しています。有機農業など特徴的な農業が行われており、様々な農産品のブランド化が進んでいるほか、民間企業による新たな工場建設や設備拡張などの動きも進んでいます。

一方で、少子高齢化の影響を受け、本地域においては、自然減による人口の減少に歯止めがかからない状態が続き、空き家の増加、農業や地域活動の担い手不足が課題となっています。また、土地利用上の規制から、住宅等の整備が容易ではなく、地域の暮らしを支える拠点地区等の機能集積に弱さが見られるほか、志和IC周辺の発展に伴い、無秩序な土地利用の抑制、通勤混雑等による交通渋滞の解消など取り組むべき課題も生まれています。加えて、高齢者をはじめとした交通弱者の移動手段の確保も課題となっています。こうした課題の解決に向けて、住民主体の協議会による新たな生活交通の運行が始まるなど、集落の維持・活性化に向けて、地域住民が主体となった検討・取り組みが進められています。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

田園環境との調和や
インターチェンジ等のアクセス性・職住近接性を活かした
仕事とともに新たな交流が生まれるまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、広島市との近接性及び山陽自動車道等の広域道路ネットワーク機能を活かすため、志和IC及び奥屋PA周辺における産業用地の確保や広域物流機能の強化等により雇用創出・地域経済活性化を図るとともに、快適な居住環境の形成や自然豊かな田園風景・里山環境と調和した生活環境の形成など、計画的に土地利用を調整し、地域資源を活かした地域内外の住民の交流促進と定住人口の増加を図るなど、活力のあるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

また、地域拠点※¹における生活支援機能の充実、高齢者等の移動手段の確保、農地の保全や都市近郊型農業の振興、河川改修の推進、子育て・教育環境の充実や、空き家の利活用の促進など、様々な地域の特色や強みを活かした施策が必要です。



※¹ 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 広島都市圏との近接性と優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 若手農業者等の多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、「農」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 園芸センターを中心とした園芸振興と担い手の育成を図ります。
- 法人間連携の促進等により、集落法人の経営高度化を支援し、優良農地の保全を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 生城山・高鉢山・ホタルの住む川などの豊かな自然環境をはじめ都市との近接性を活かした農泊などの体験型観光や、地域資源を活用した取組みを推進します。



園芸センター

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 西志和地区において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の維持・充実を図ります。
- 移住・定住の促進に向けた、土地利用規制のあり方について検討するとともに、空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 志和ホタル交通の運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる県道等の整備を推進します。
- 歩道や自転車道を含め、道路のバリアフリー化を推進し、安全・安心な移動空間の形成を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



志和ホタル交通

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 神機隊や生城山城など郷土の歴史の保存と活用を推進します。
- 廃校施設を活用したニュースポーツを促進します。



神機隊本陣跡

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 志和堀地区において住民主体で取り組まれている、地域活動拠点の機能向上に向けた継続的な検討を支援するとともに、移住者の受け入れ活動を支援します。
- 小学校跡地の活用を促進します。

都市成長基盤の強化・充実

- 志和インター線、瀬野川福富本郷線、東広島白木線の沿道における住居系・産業系の土地利用を促進し、地域の活性化を図ります。
- 志和IC周辺等における土地利用の推進及び産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道2号安芸バイパスの4車線化、志和インター線等の整備を促進するなど、交通ネットワークの充実を図ります。
- バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。



地域住民が運営する産直市



志和流通団地

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 関川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

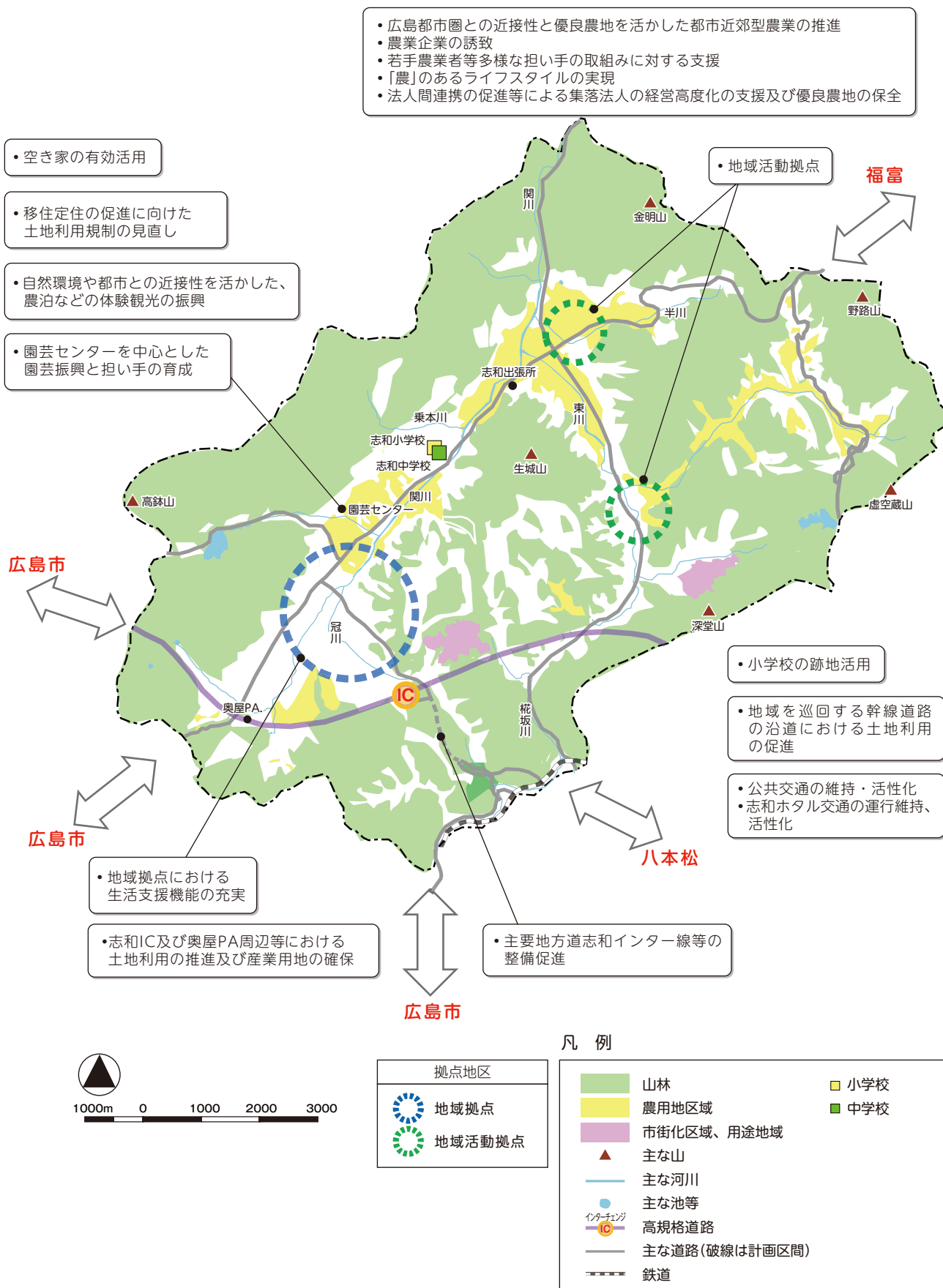
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



介護予防に取り組む通いの場



(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

4 高屋地域



1 地域の概要

高屋地域は、東広島市の中央よりもやや東寄りに位置し、古代には高屋郷と呼ばれ、白鳥古墳をはじめとする数多くの遺跡が存在するなど、政治・文化の拠点として栄え、中世には平賀氏の本拠地が置かれ、白市が白山城しろやまじょうの城下町として開かれました。現在でも、広島中央テクノポリス建設によって、製造業の立地や住宅団地の造成、大学等の学術機能の集積が進んだ利便性の高い地域です。また、山陽自動車道高屋ジャンクション・インターチェンジ（以下：高屋JCT・IC）があり、広島空港や広島市へのアクセス性も高いほか、高規格道路東広島・呉自動車道の整備により呉方面への交通利便性も高まり、さらに、東広島高田道路の整備によって、東西南北の広域交通の要衝となる地域です。

土地利用は、西高屋駅を中心に拠点地域が形成されており、計画的に整備された東広島ニュータウンなどの住宅団地のほか、教育機能が集積しています。白市駅は、広島空港への連絡バスが運行しているほか、周辺には歴史的なまち並みがあります。また、周囲には概ね地域を取り囲む山林及び緩やかな傾斜地があり、比較的平坦でまとまった農地では、豊かな田園が広がり、酒米など特徴的な農産物が生産されています。

2 まちづくりにおける現状と課題

市制施行直後の昭和50（1975）年に13,948人であった人口は、増加を続けてきましたが、平成17（2005）年の約30,900人をピークとして横ばいから微減の傾向が続き、現在は約30,200人となっています。また、産業団地や住宅団地、山陽自動車道高屋JCT・IC、東広島・呉自動車道などを中心とした様々な事業の推進により、都市的基盤が整いつつあり、近畿大学工学部及び附属広島中学校・高等学校、県立広島中学校・高等学校などの教育機関も集積しており、市内の文教地区の一つとして市内外から若年世代が多く集まる地域となっています。地域拠点※1においては西高屋駅の整備や地域センターと保育所の複合化などの施設整備が進んでいるほか、河川改修などの浸水対策も進められています。

一方、本市の文教地区としての拠点であるものの、市内外から集まる若年世代が活力を発揮する場の不足、西高屋駅周辺等における農地と市街地の混在、少子高齢化に伴う集落地域の過疎化、郊外住宅団地の高齢化、雇用の場となる企業及び新たな産業用地の不足、地域拠点と周辺地区を接続する交通サービスの利便性の向上などが課題となっています。これらの課題の解決に向け、市と近畿大学のTown&Gown構想※2による大学・民間企業・地域住民と連携したまちづくりの検討や、周辺地区でのコミュニティバスの運行など、地域主体による取り組みが始まっています。

※1 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

※2 Town&Gown構想：タウン（市）とガウン（大学）が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

広域交通や様々な教育機関が整う
豊かな田園と良好な居住環境を備えたまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、本市有数の文教地区である拠点地域において、駅や公共施設の再整備にあわせて、地域住民の世代間交流による地域コミュニティの活性化、子育て・教育環境や交通機能の充実、魅力ある居住環境の整備等により利便性の高い拠点の形成を進めるとともに、大学と共に取り組むTown&Gown構想の推進などを通じて、若者世代にとって魅力的な雇用や暮らし、交流の場を創出する施策を組み立てていく必要があります。

また、人口減少が進む田園地域における担い手不足への対応や、基盤整備を進め農業の振興を図るとともに、歴史ある文化的景観の保全による地域の魅力向上など、地域の活力を継続する取り組みが必要です。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 大学との連携促進とともに、企業におけるAI※2/IoT※3の導入支援等により、産業イノベーションの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 酒米の振興や特別栽培米等の販売強化による収益性の高い米づくりを推進します。
- 次世代を担う農業者を確保するため、地域農業の中核を担う人材の育成を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 法人間の連携促進等により、集落法人の経営高度化を支援し、優良農地の保全を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、農泊などの体験型観光や、白市地区における歴史的景観やまち並み等、地域資源を活かした観光・交流事業を推進します。



造賀地区の田園風景

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 西高屋駅周辺において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の集積により拠点機能の充実を図るとともに、文教地区にふさわしい、良好な住環境を形成します。
- 移住・定住の促進に向けた、土地利用規制のあり方について検討するとともに、既存住宅団地の活性化や下水道等の基盤整備などにより、居住環境の向上を図ります。
- 拠点地区における公共施設の再編を促進し、各種サービス機能の充実を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- おまるめ山バスの運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる都市計画道路等の整備を推進します。
- 歩道や自転車道を含め、道路のバリアフリー化を推進し、安全・安心な移動空間の形成を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



おまるめ山バス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 高屋情報ラウンジにおいて、ICT※⁴の活用など図書館の特徴化を図りながら、新たな地域拠点※⁵として、学生の参画や地域の賑わいづくりを進めます。
- 平賀氏の遺跡や白市歌舞伎など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



木原家住宅でのチャイルドアート

活力づくり

項目

施策の方向性

学術研究機能の発揮による都市活力の創出

- 近畿大学工学部とのTown&Gown構想※⁶を推進し、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行うとともに、産学官民連携によるまちづくりを進めます。

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 青少年・学生の力を活かし、交流・連携事業を推進します。
- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 県立広島高等学校・近畿大学附属広島高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。

都市成長基盤の強化・充実

- 山陽自動車道との近接性を活かし、IC周辺等での産業用地の確保を進めます。
- 歴史的なまち並みなど、景観に配慮したまちづくりを推進します。

交通ネットワークの強化

- 東広島高田道路等の整備を促進するなど、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。
- 西高屋駅の南北駅前広場、自由通路の整備により、ターミナル機能の強化及び駅周辺の交通機能の向上を図ります。
- 広島空港へのアクセス機能を確保します。



近畿大学工学部



西高屋駅完成予想図

※4 ICT:Information and Communication Technology の略。情報通信技術のこと。

※5 地域拠点:各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

※6 Town&Gown構想:タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 入野川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 都市型災害（浸水対策等）への対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

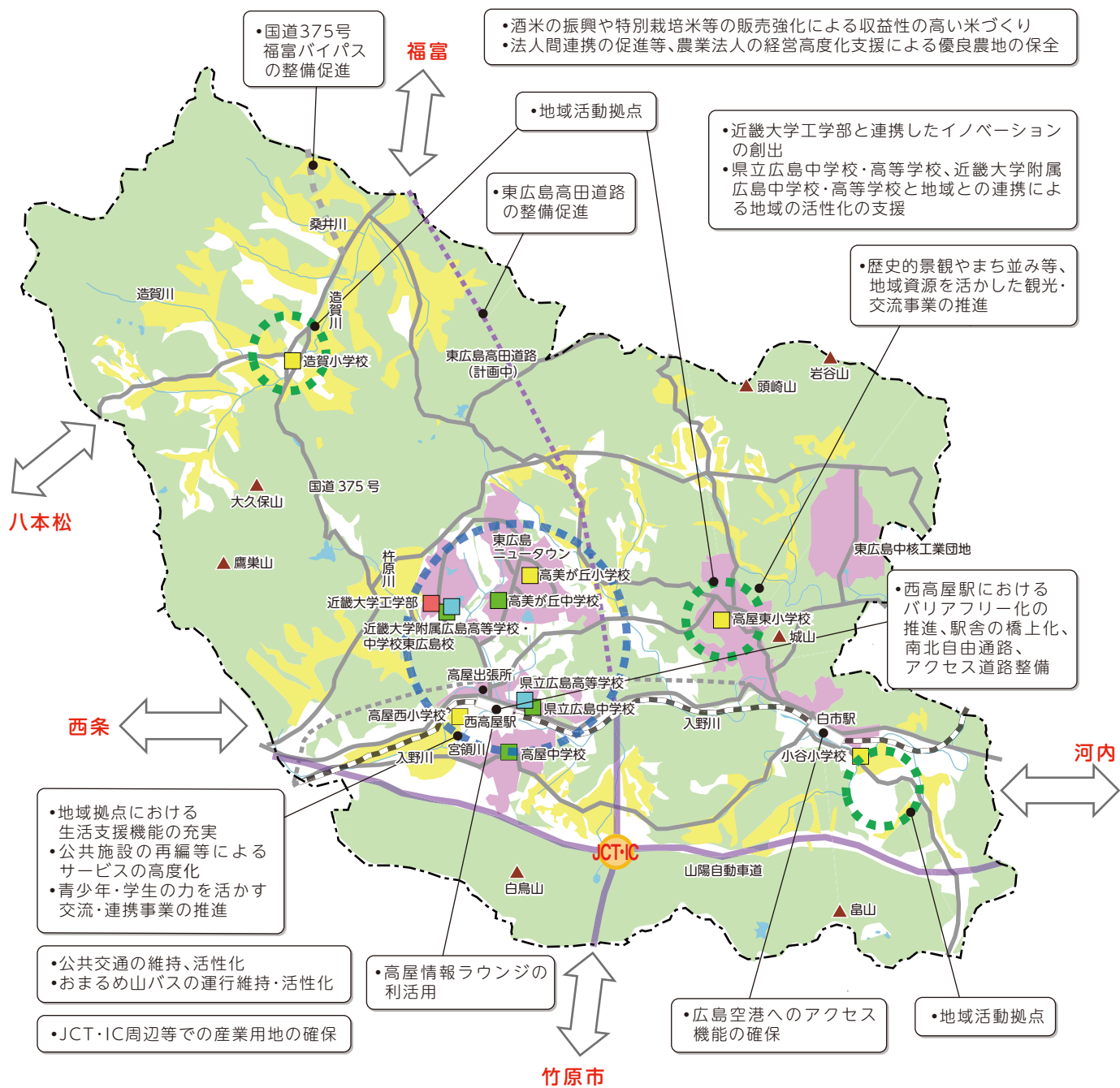
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



高屋西地域センター・
高屋中央保育所複合施設
完成予想図



(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

5 黒瀬地域



1 地域の概要

黒瀬地域は、東広島市の南部に位置しており、古墳時代の保田古墳群^{やすだ}や鎌倉時代の懸仏^{かけぼとけ}を蔵する門前神社があるなど、数多くの貴重な文化財が存在するほか、江戸時代に農地の拡大が図られ、数多くのため池が造られるなど、黒瀬川沿いに古くから農業地帯が広がっています。北を西条地域、南を呉市、西を熊野町・広島市と隣接、近接し、南北には、高規格道路である東広島・呉自動車道と国道375号、東西には、主要地方道矢野安浦線があるなど、道路交通網が整っています。

中黒瀬地区周辺は、生活利便性の高い施設が密集し拠点性が高い地域となっており、丘陵部の住宅団地と平野部に広がる集落や田園風景が特徴的な地域となっています。また、産業団地に企業が集積しているなど、多くのものづくり企業等が立地しています。さらには、広島国際大学をはじめ、県立黒瀬高等学校、武田中学校・高等学校が立地するなど、文教機能も整った地域となっています。

また、旧黒瀬町においては、総合計画の将来都市像に「人と自然がきらめく 交流タウン」を掲げ、「自然と共生した美しいまち」「交流を促進する活気あふれるまち」「しあわせ育む福祉の充実したまち」を基本理念にまちづくりを進めてきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

平成12(2000)年の25,351人をピークとして、人口は緩やかな減少傾向が続き、現在は約23,300人となっています。東西南北の道路網の整備により、呉市、広島市等の近隣市町の各方面への交通利便性が高まり、住宅団地や産業団地の造成が進み、住宅や企業の集積が進んできたほか、住民が主体となって生活交通を運行している地域でもあります。健康・医療・福祉系の総合大学である広島国際大学や県立黒瀬高等学校が立地し、福祉に関連した地域連携が行われており、市民の交流と健康増進、健康寿命の延伸など健康・福祉のまちづくりに向けて、市と広島国際大学が持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指すTown&Gown構想^{※1}の取組みが始まっているほか、地域の代表的な農産品等としては、牛肉や日本酒が挙げられ、近年ではブドウの生産者が増加しています。また、黒瀬ダムや黒瀬川をはじめとする雄大な自然など、本市でも有数の特徴的な機能が備わった地域となっています。

一方で、小中学校における児童・生徒数の減少、郊外型住宅団地の高齢化、新たな産業用地の不足、公共交通の維持確保などが課題となっています。また、農業地帯に市街化が進んだため、住宅団地や集落が広範囲に分布し、地域の中心となる拠点が低密度で機能集積が不十分となっています。加えて、市民協働のまちづくりを進める上での地域活動拠点施設の充実も課題となっています。

※1 Town&Gown構想: タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

交通利便性や地域資源である大学の
機能を活かした健康・福祉と交流のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、Town&Gown構想の推進のほか大学や高等学校の人材育成機能や知見を活かした健康のまちづくりの取組みに加えて、持続可能な公共交通を他分野との「共創」により確保するほか、都市計画道路や交通結節点の整備による域外からのアクセス性を活用し、東広島・呉自動車道IC周辺の産業立地を誘導するとともに、従来の田園環境と調和した地域を目指す必要があります。また、黒瀬川水系の河川改修などによる治水対策の強化に加えて、地元住民、新規流入世代にとって魅力的な雇用の創出や起業の支援、魅力ある居住環境の整備、子育て・教育環境の充実など、既存の強みを活かした施策を組み立てていく必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 大学との連携促進とともに、企業におけるAI※2/IoT※3の導入支援等により、産業イノベーションの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 呉市や広島都市圏との近接性と優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 肉牛を中核とした畜産業の振興と耕畜連携による生産性の向上を推進します。
- 地域産品の情報発信と販路拡大による広域的な交流機会の創出を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、農泊などの体験型観光や、黒瀬ふれあい夏まつりをはじめ、地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



黒瀬ふれあい夏まつり

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 中黒瀬地区において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の集積により、拠点機能の充実とともに、良好な住環境の形成を図ります。
- 移住・定住の促進に向けた、土地利用規制のあり方について検討するとともに、既存住宅団地の活性化、下水道等の基盤整備などにより、居住環境の向上を図ります。
- 空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。
- 地域活動の活性化のため、ICT※4の有効活用なども含め、地域活動拠点施設の充実に取り組みます。

安全で円滑な生活交通の充実

- 黒瀬さくらバスの運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる都市計画道路等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実に図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



黒瀬さくらバス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 ICT:Information and Communication Technologyの略。情報通信技術のこと。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 保田古墳群や門前神社の懸仏など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



市民ミュージカル

活力づくり

項目

施策の方向性

学術研究機能の発揮による都市活力の創出

- 広島国際大学とのTown&Gown構想※5を推進し、地域社会の課題解決に向けた活動への支援を行うとともに、産学官民連携によるまちづくりを進めます。

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 青少年・学生の力を活かし、交流・連携事業を推進します。
- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 県立黒瀬高等学校・武田高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。

都市成長基盤の強化・充実

- 東広島・呉自動車道との近接性を活かし、IC周辺等での産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道375号等の整備を促進するなど、交通ネットワークの充実を図ります。
- 交通結節点を整備するほか、多様な関係者との「共創」により、利便性及び持続性の高い公共交通の構築を図ります。



広島国際大学



東広島・呉自動車道(大多田IC)

※5 Town&Gown構想:タウン(市)とガウン(大学)が一体となってまちづくりに取り組む構想。自然豊かな東広島市に、大学を中心とした新しい技術を取り入れることで、世界中から多様な企業や人材が集まり、平和で、環境にもやさしい、持続可能なまちをつくることを目指す。

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 猿田川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 都市型災害（浸水対策等）への対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 広島国際大学と連携した健康維持や介護予防を推進します。
- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



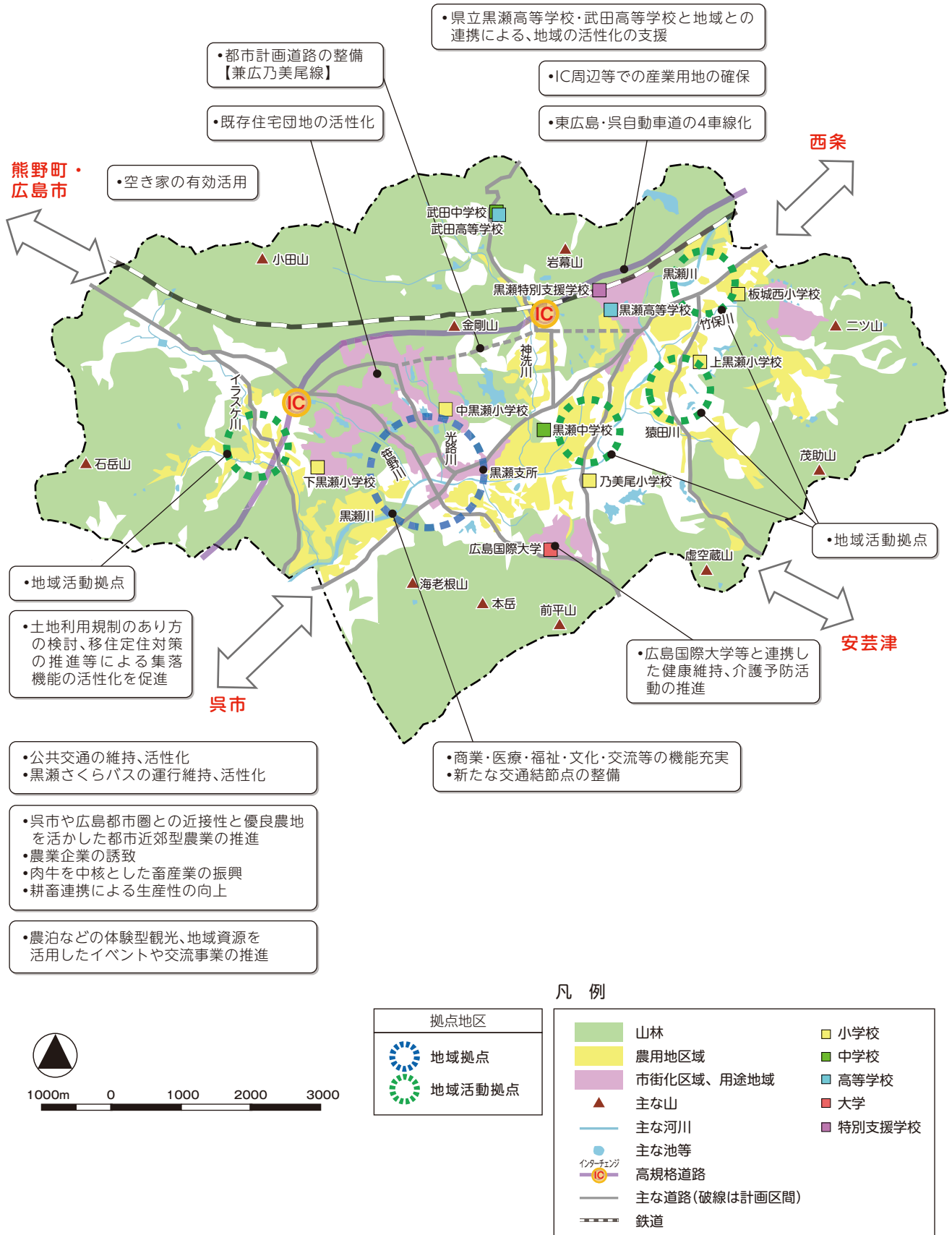
黒瀬川



さくらウォーク

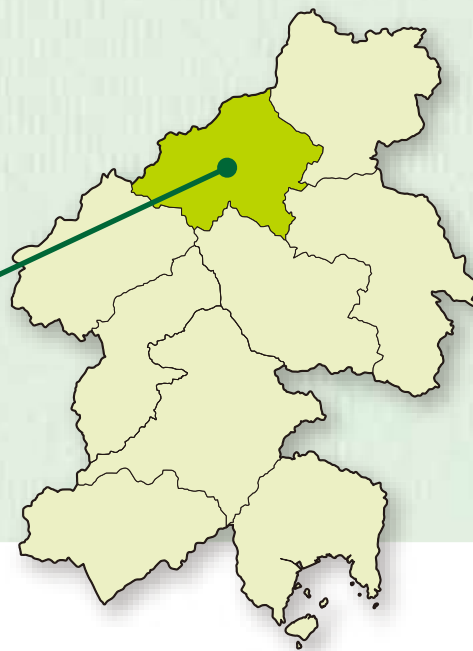


(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

6 福富地域



1 地域の概要

福富地域は、東広島市の北部に位置し、福富ダムの建設で調査された戸鼻^{とばな}遺跡からは縄文時代の土器や石器が出土しており、早くから人びとが生活していたことが知られています。中世には小早川氏、平賀氏、大内氏らが領有を争い、多くの山城が築かれたように、古くから人やものの交流が盛んな地域です。地域を南北に縦断する国道375号があり、北は安芸高田市、南は高屋地域、志和地域に隣接し、また、東側の豊栄地域とともに心安らぐ田園風景を形成する地域となっています。

福富ダムや道の駅「湖畔の里福富」の立地により地域拠点^{※1}が形成されており、周囲を山林に取り囲まれた豊かな自然の中に集落が点在し、主に農業や体験型の農園や農場などが営まれ、特産品が生産されています。近年、特産品を取り扱う店舗等が増え、周辺地域から人をひきつける魅力的な地域となっています。

また、旧福富町においては、総合計画のまちの将来像として「県央のふれあいジャンクション」を掲げ、「豊かな町民生活(人)」と「豊かな自然(自然)」が調和したまちの実現を目指してまちづくりを進めてきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

本地域は、人口が昭和22(1947)年の5,595人をピークとして、減少傾向が続き、現在は約2,200人で、市内の中では、最も人口が少ない地域となっています。この地域は、のどかな田園風景が広がり、エゴマなどの特産品の栽培をはじめとする産業としての農業が盛んである一方で、畜産業や飲食業、手作り製品の販売店などこだわりを持った個性的なスポットが、地域内の随所に点在しており、多くの観光客を集めてにぎわっています。また、鷹ノ巣山やクロボヤ峡、わにぶちの滝など、豊かな自然があり、こうした地域特性・地域資源を活かした新しい暮らし方の実現に向けて、市と民間企業が連携して「生活デザイン・工学研究所」を開設し、循環型経済の確立や生活価値の創造に向けた取組みが始まっています。

一方、人口の減少、高齢化、空き家の増加が続いており、地域活動の担い手不足や地域の支え合いの力が弱まっています。また、多くの集落が分散していることや、高齢者等の移動手段の確保、農業の担い手不足、有害鳥獣による農作物への被害等も課題となっています。

※1 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

3 まちづくりビジョン

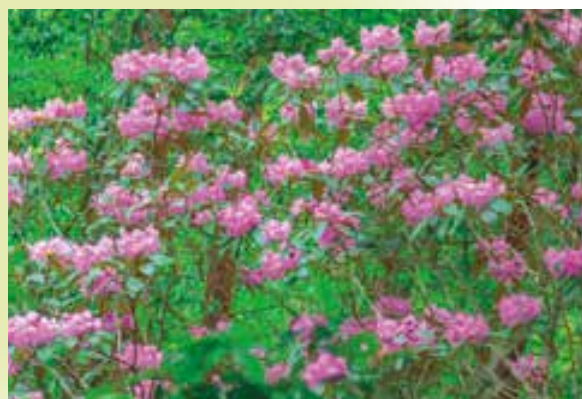
(1) 将来像

自然と人が共生する
新たなライフスタイルに出会える交流のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、福富ダムや「企業の森」^{※2}などの地域の資源を活用し、その価値を高め、新たな価値や経済の創出につなげることで、地域内で経済を循環させるほか、観光を起点として地域内外の交流を促進するとともに、中山間地域において豊かな自然を満喫できる、「農」や「森」のあるライフスタイルの実現や、豊かな自然資源と最先端のテクノロジーの融合、カーボンニュートラル^{※3}やDX^{※4}の推進により、新たな生活価値を創造するなど、移住・定住・交流・関係人口の拡大や地域産業の振興を推進していく必要があります。

また、空き家の利活用の促進、高齢者をはじめとした交通弱者の移動手段の確保、有害鳥獣対策等の農地保全や農業経営への支援、子育て・教育環境の充実のほか、地域に残る里山環境を活かすとともに、地域の担い手となる若者世代や自然の中での暮らしを希望する人材にとって魅力的な環境の創出など、地域の特性や強みを活かした魅力的な施策を組み立てていく必要があります。



※2 企業の森：東広島市が企業等にCSR（企業の社会的責任）や社会・環境貢献活動、また地域との交流活動の一環として、市内の森林環境保全に取り組んでいただく事業を総称するもの。

※3 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。日本は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロをすることを宣言している。

※4 DX：Digital Transformationの略。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 道の駅等を中心とした地域特産品の魅力向上や、酪農のブランド力向上を推進します。
- 若手農業者等多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、「農」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 企業と地域の協働により、森林の再生に取り組むとともに森林資源を活用した新たな価値の創造を推進します。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、都市との近接性を活かした、道の駅「湖畔の里福富」及び福富ダム周辺施設の活用や農泊などの体験型観光、アクアフェスタin福富をはじめ、地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



若手農業者



道の駅「湖畔の里福富」

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 福富ダムや道の駅「湖畔の里福富」の立地する地区において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の維持・充実を図ります。
- 空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 身近な交通道路網となる県道等の整備を推進します。
- 市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



地域内を走行するバス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 戸鼻遺跡や丁田南古墳、シャクナゲやミコシギクなど郷土の歴史や貴重な動植物の保存と活用を推進します。
- 中山間地域（福富地域、豊栄地域及び河内地域）にある博物館等が広島大学と連携し、1つの博物館のように機能するよう、体制の強化を図ります。



ミコシギク

活力づくり

項目

施策の方向性

多様な豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 小学校跡地の活用を促進します。

都市成長基盤の強化・充実

- 国道375号福富バイパスの整備等も踏まえ、未利用県有地を活用した産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道375号福富バイパス等の整備を促進し、交通ネットワークの充実を図ります。
- バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。

未来を感じるプロジェクト挑戦都市

- 地域の里山の整備・活用や、旧竹仁小学校を生活価値創造拠点（福富みらいベース）として整備するなど、「生活デザイン・工学研究所」の活動を通じ、循環型経済の確立による地域活性化を推進します。



生活デザイン・工学研究所の活動拠点となる旧竹仁小学校



ANAForestの風景

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 沼田川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

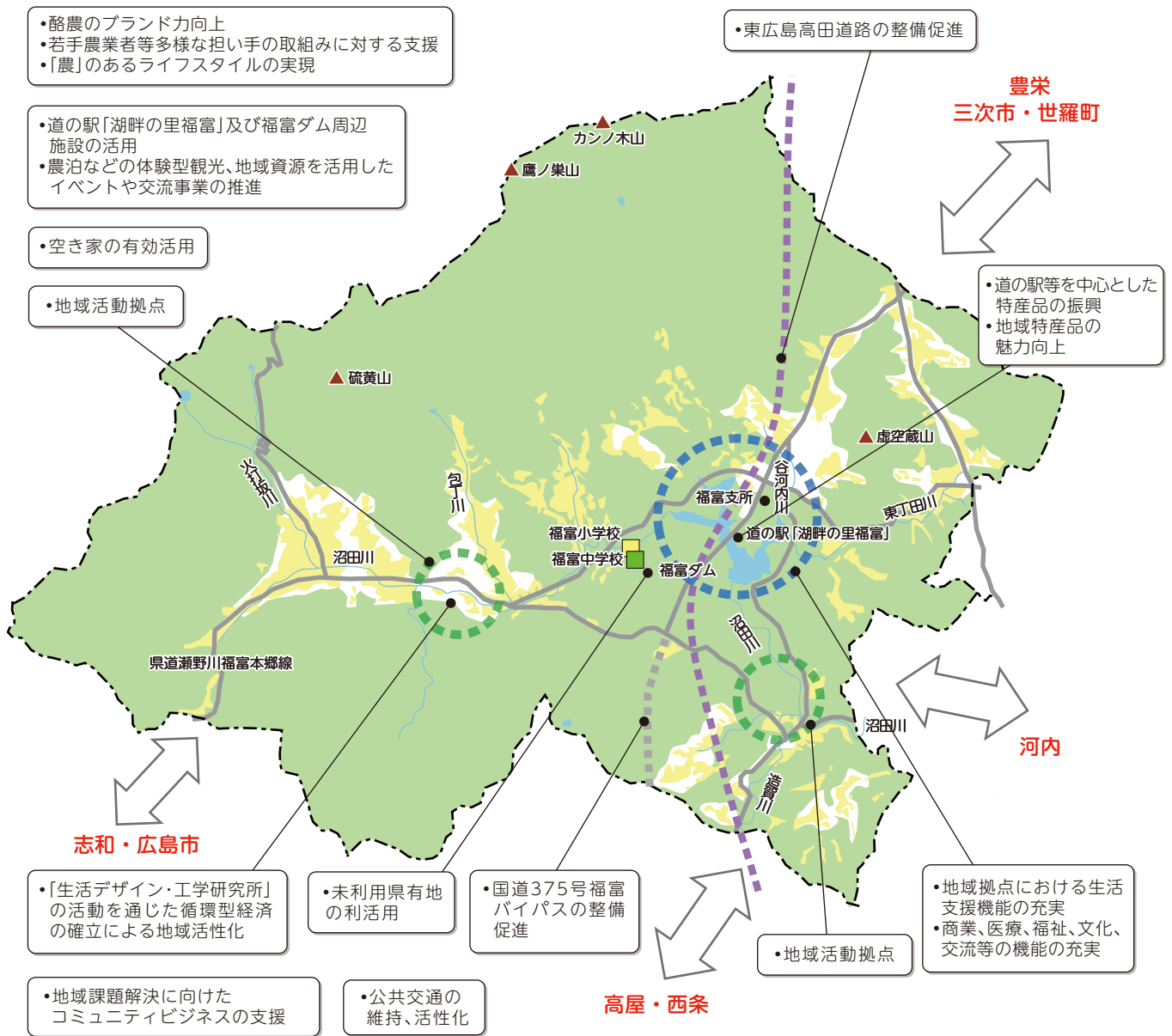
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



介護予防に取り組む通いの場



(3) 構想図



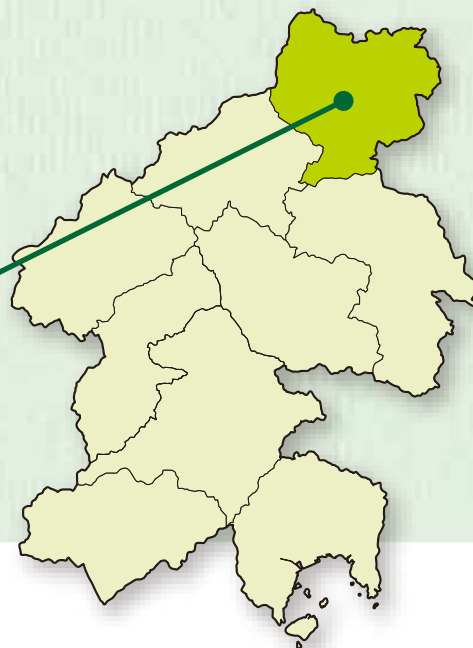
拠点地区
地域拠点
地域活動拠点

凡 例

山林	小学校
農用地域	中学校
▲ 主な山	
— 主な河川	
● 主な池等	
— 高規格道路(破線は計画区間)	
— 主な道路(破線は計画区間)	

※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

7 豊栄地域



1 地域の概要

豊栄地域は、東広島市の最北端に位置し、県内主要河川の源流域に当たり、オオサンショウウオ等の生息地としても知られるなど豊かな自然に恵まれた地域です。歴史的にも古くから栄えていたことを示すように、乃美や安宿といった古代以来の地名や数多くの遺跡が発見されています。備北・備後・安芸地域の接点となる広島県の中央に位置することから、古くから交通の要衝となっているほか、農業地帯が広がっています。

北は三次市、東は世羅町、三原市、西は安芸高田市に隣接しており、国道375号が地域を南北に縦断しています。鍛冶屋地区周辺に商業施設などが密集しており、地域の拠点となっています。周囲を山林に取り囲まれた田園風景の中に集落が点在し、豊かな自然環境の中で、農業を中心に体験型の農園及び牧場などが営まれています。

また、旧豊栄町においては、総合計画のまちづくり像として、「豊かな自然に調和した活力あるまちづくりをめざして」を掲げ、「活力にみちた快適なまちづくり」、「新しい豊かさを求めたまちづくり」、「特色ある教育・文化のまちづくり」を進めてきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

人口は昭和22(1947)年の9,315人をピークとして、減少傾向が続き、現在は、約2,800人となっています。

牧場や体験型の農園など、特徴的な観光資源があるほか、オオサンショウウオやエヒメアヤメ、板鍋山や天神獄など自然に親しむ取組みが学校や地域で活発に行われています。また、地域の活性化に向け、商工会を主体としたマルシェの開催による地域内外の交流や、新たな観光資源の開発など、民間事業者主体のまちづくりの取組みや、ジビエ※¹や地鶏などのブランド化の取組みが進められています。

一方、人口の減少、高齢化、空き家の増加が続いています。また、若者に魅力的な雇用の場が少なく、若い世代が流出し、地域活動の担い手不足や地域の支え合いの力が弱まっていることや、農業の担い手不足、有害鳥獣による農作物への被害等が課題となっています。

※1 ジビエ：狩猟で得た自然の野生鳥獣の食肉。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

豊かな自然の中でゆとりある暮らしが楽しめる
体験・交流・定住のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、民間事業者の活発な活動との連携や豊かな自然環境を活かし、地域の担い手となる若者世代にとって魅力的な働く場の創出に取り組むことや、にぎわいのある地域として地域活力を向上させるために、豊かな自然や特産品といった地域資源を活用した観光振興など、地域内の経済を循環させることで、市内外の多世代の交流と経済の活性化を図ることが必要です。また、空き家の利活用の促進のほか、高等学校までの教育機関が所在する環境を活用し、体験・交流を通じて定住につながるよう、安心して豊かに暮らしていける生活環境の整備や、子育て・教育環境の充実に取り組んでいくことが必要です。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 法人間の連携促進等により、集落法人の経営高度化を支援し、優良農地の保全を図るとともに、有害獣処理加工施設を活用したジビエ※4加工品や食鳥処理施設を活用した東広島こい地鶏のブランド力向上と酪農を中核とした6次産業化を促進します。
- 若手農業者等の多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、「農」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 賀茂バイオマスセンターを活用した林業の振興を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民泊やコテージなどを活用した滞在型観光や、どまんなか豊栄ヘソまつりをはじめ、自然資源を活用した取組み（エコミュージウム）、板鍋山、天神嶽、オオサンショウウオなど、地域資源を活かしたイベントや交流事業を推進します。



地鶏の養鶏場



どまんなか豊栄ヘソまつり

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 鍛冶屋地区において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の維持・充実を図るとともに、豊かな自然環境の中で、ゆとりある空間を活かした良好な住環境を形成します。
- 「豊栄プロジェクト」による官民学等の連携・協働により、魅力ある拠点の形成を図ります。
- 空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。
- 拠点地区における公共施設の再編を図るため、豊栄支所の機能再編を推進します。

安全で円滑な生活交通の充実

- 豊栄そよかぜ号の運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



空き家セミナー



豊栄そよかぜ号

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Thingsの略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 ジビエ:狩猟で得た自然の野生鳥獣の食肉。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 乃美遺跡群やエヒメアヤメ、オオサンショウウオなど郷土の歴史や貴重な動植物の保存と活用を推進します。
- 中山間地域（福富地域、豊栄地域及び河内地域）にある博物館等が広島大学と連携し、1つの博物館のように機能するよう、体制の強化を図ります。



オオサンショウウオ

活力づくり

項目

施策の方向性

多様な市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 県立賀茂北高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。
- 国道375号等の整備促進も踏まえ、沿道における土地利用を促進し、地域の活性化を図ります。

交通ネットワークの強化

- 国道375号等の整備を促進し、交通ネットワークの充実を図ります。
- バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。



地域体験ツアー 酪農体験

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 棕梨川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



いきいき百歳体操

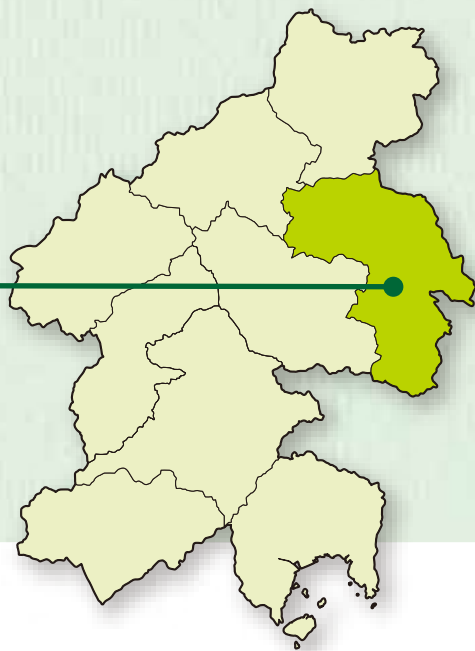


後期基本計画

第2章 地域別計画



8 河内地域



1 地域の概要

河内地域は、東広島市の東部に位置し、緑深い自然環境と清流に恵まれた地域で、古くは沼田川流域に沿って二反田古墳群などの古墳群や集落が形成されたほか、篁山竹林寺は平安時代の文人小野篁にゆかりがあるとも言われており、本堂は国の重要文化財にも指定されています。明治時代の鉄道の開通により、河内駅を中心に木材や農産物の集積地として発展してきました。

東を三原市、西を高屋地域に接し、東西にJR山陽本線が横断するほか、地域の南側には、山陽自動車道の河内インターチェンジ（以下：河内IC）があるほか、広島空港へも近接するなど、陸・空の広域・高速交通へのアクセスに恵まれた地域です。沼田川とその支流沿いに広がる平地部や北部地域には集落が点在し、田園風景が広がっています。丘陵地が広がる南部地域では、大規模な工業団地や住宅団地などが整備されています。

また、旧河内町においては、「心豊かなすみよいまち 元気な河内 ～交通の利便性と豊かな自然を活かした快適な生活を求めて～」を掲げ、「高齢者が活躍する」「若者や女性が元気に参画する」「高速交通条件を活かす」「自然と田園環境を活かす」「河内町型ライフスタイルを実現する」「地域の歴史や文化を継承する」を基本理念にまちづくりを進めてきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

昭和22（1947）年の11,172人をピークとして、人口は緩やかな減少傾向が続いており、現在は約5,500人となっています。南部では、広島空港への近接性や山陽自動車道の河内ICやJR山陽本線があり、それに伴い産業団地や住宅団地が立地するなど、恵まれた広域交通の環境があります。さらには、開発可能な未利用の公有地があり、新たな産業を呼び込める可能性がある地域です。北部には、豊かな自然や田園環境が広がり、小学校跡地を利用した体験交流施設など、集落法人等がそれぞれの地域で特徴的で活発な活動を実施しているほか、地域拠点^{※1}の活性化に向け、地域住民と大学や高等学校など多世代が連携して、地域イベントの運営のほか、地域課題の掘り起こしや解決策の検討の取り組みも行われています。また、小中一体型施設と分離型施設による特色ある小中一貫教育も進んでいます。

一方、人口の減少、高齢化、空き家の増加が続いています。また、若者に魅力的な雇用場が少なく、若い世代が流出し、地域活動の担い手不足や地域の支え合いの力が弱まっていることが課題となっています。

※1 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

豊かな自然と空港や鉄道等の
交通利便性を活かしたゆとりと活力のあるまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、将来を見すえ地域の活性化を目指すために、この地域の強みである広島空港、河内IC、JR山陽本線などの交通機関の集積と豊かな自然が共存している地域特性を踏まえたまちづくりが必要です。また、地域内で経済を循環させることで、地域を持続的に活性化させる必要があります。そのためには、空港周辺に隣接する未利用公有地を活用した産業団地の整備、地域内企業間の連携支援による経営改善、地域拠点における生活支援及び住民交流機能の充実、定住人口の増加対策、子育て・教育環境の充実、空き家の利活用の促進、農業の収益性向上のための生産基盤の整備や省力化の推進など様々な取組みを推進していく必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 集落営農を中心とした6次産業化とスマート農業※4による生産性の向上を推進するとともに、土地改良事業の推進による生産基盤の強化を図ります。
- 若手農業者等多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、「農」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 賀茂バイオマスセンターを活用した林業の振興を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、空港や高速道路等との近接性を活かした、農泊などの体験型観光、リバーサイドフェスティバルをはじめ、白竜湖・深山峡など地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



リバーサイドフェスティバル

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 河内駅周辺において、医療、福祉、子育て、文化、交流等の生活利便施設の集積により、拠点機能の充実を図るとともに、良好な住環境を形成します。
- 河内駅駅舎の活用等を含め、拠点地区における活性化やにぎわいの創出を図ります。
- 空き家の有効活用等により、居住環境の向上を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 河内あゆピチふれあい号・入野デマンド交通の運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



空き家予防啓発講演会の様子



河内あゆピチふれあい号

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 スマート農業:ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 簗山竹林寺や沼田川流域の古墳群など郷土の歴史の保存と活用を推進します。
- 中山間地域（福富地域、豊栄地域及び河内地域）にある博物館等が広島大学と連携し、1つの博物館のように機能するよう、体制の強化を図ります。



竹林寺

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 県立河内高等学校と地域との連携による、地域の活性化の支援を図ります。
- 小学校跡地の活用を促進します。

都市成長基盤の強化・充実

- 河内駅周辺における市街地の活性化を進めます。また、JRの利便性向上、河内駅・入野駅のバリアフリー化等を促進します。
- 空港周辺に隣接する未利用県有地（入野地区、大仙地区及び元兼地区）について、広島県と早期の利活用に取り組みます。

交通ネットワークの強化

- 高速道路や空港との近接性を活かして、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。



広島空港

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 沼田川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

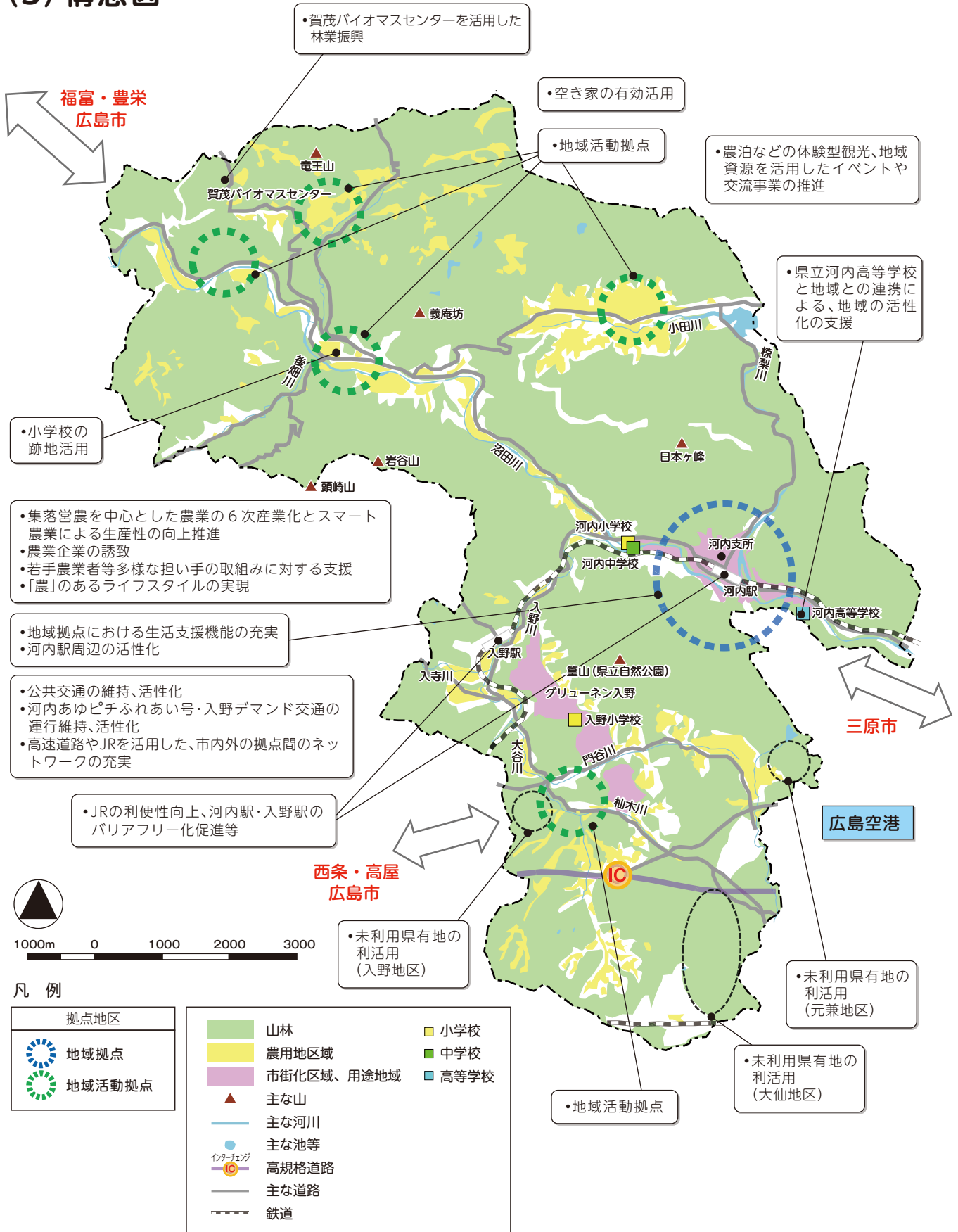
- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



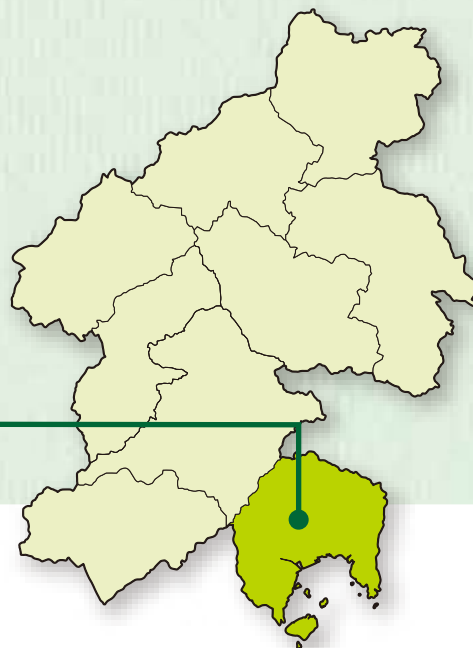
介護予防に取り組む通いの場



(3) 構想図



9 安芸津地域



1 地域の概要

安芸津地域は本市の南部に位置し、本市で唯一瀬戸内海に面しており、万葉のころから潮待・風待の港となった素晴らしい湾があります。また、江戸時代には広島藩の米蔵が置かれるなど、交通の要衝、物流の拠点、海運の町として栄えてきました。

東を竹原市、西を呉市に接しており、基幹となる交通ネットワークとして、JR呉線と国道185号からなる東西の軸、本市の中心部と地域拠点※¹である三津地区を結ぶ主要地方道安芸津下三永線による南北の軸が形成されているほか、大崎上島町と航路で結ばれています。三津湾を囲むように、市街地が国道185号の沿道を中心に沿岸部から内陸部にかけて広がっており、温暖な気候で風光明媚な景観など、豊かな自然環境の中で特色ある農業や水産業が営まれているほか、沿岸部には広島中央テクノポリス圏域を構成する工業系の企業が集積しています。

また、旧安芸津町においては、総合計画の基本目標に「バリアフリータウン・あきつーあかるい環境・きらめく個性・つちかう交流ー」を掲げ、施策を実施してきました。

2 まちづくりにおける現状と課題

昭和20(1945)年の約16,500人をピークとして、本地域の人口は減少傾向が続いています。少子高齢化の影響等もあって、合併時に約12,000人であった人口が約8,800人となっています。そのなかで、外国人市民が約300人居住しており、本地域の産業の重要な担い手となっています。瀬戸内海に面し、優れた景観、温暖な気候、農水産物等の特産品や、特色ある歴史文化、雇用を支える産業団地の企業群、イノベーション※²を育む果樹・柑橘系^{かんきつ}の試験研究機関、駅と港が近接する立地環境、広域的な医療機能を担う県立安芸津病院など、様々な強みを有しています。また、近年では、自分らしいライフスタイルの実現を目指し、自然豊かな地域に移住先を求める人の増加など、新しい変化も地域に現れつつあります。

一方、人口の減少、高齢化が続いています。特に若年女性の減少が顕著であり、経済活動や地域活動の停滞・担い手不足などが危惧されているなか、課題の解決に向けた地域住民によるまちづくりの取り組みが始まっています。

平成30年7月豪雨災害の際には、本地域は甚大な被害を受けましたが、三津大川の改良復旧など、復旧・復興を進めるなかで、住民主体のマルシェが始まるなど、地域住民間の新たな交流も生まれてきています。

※1 地域拠点：各生活圏の居住者の生活を支える、地域の核となる拠点。

※2 イノベーション：経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

瀬戸内海に臨む温暖な気候と豊かな自然環境を活かした共に支え合う共生のまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、顕著な人口減少を抑制し、とりわけ女性や若者に魅力的である地域となっていくために、国・県の研究拠点や水産業など本地域の特徴である資源を活かした更なる取組みが必要です。また、地域特性を活かした観光資源の保全と魅力増進、多様性を尊重し合う社会環境の整備、空き家の利活用の促進をはじめとした魅力ある居住環境の整備や、子育て・教育環境の充実、県立安芸津病院との連携による健康増進、地域包括ケア推進体制の充実、安芸津港の整備による離島へのアクセス強化、地域の担い手となる若者世代にとって魅力的な雇用の創出や起業の支援などを柱として施策を組み立てていくことが必要です。

さらに、地球規模での気候変動など、災害発生リスクの更なる増大が懸念される中で、災害に強い地域づくりを推進していく必要があります。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション※1の創出

- 企業等へのAI※2/IoT※3の導入支援とともに、恵まれた自然環境を活かした新たなビジネスの創出を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 農業技術センター果樹研究部等の研究機関と連携し、果樹の新品種の導入やスマート農業※4による生産性の向上を推進するとともに、馬鈴薯や肉牛のブランド力向上を図ります。
- 若手農業者等多様な担い手の取組みに対する支援を進めるとともに、瀬戸内の温暖な気候を活かした「農」や「漁」のあるライフスタイルの実現を推進します。
- 牡蠣の生産支援や、漁場環境の整備により、水産業の振興を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 民間事業者の参入も含め、農泊などの体験型観光や、火とグルメの祭典あきつフェスティバルをはじめ、正福寺山、保野山などの海の見える景観や道路・港湾等、地域資源を活用したイベントや交流事業を支援します。



牡蠣の収穫



正福寺山公園からの眺望

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 安芸津駅周辺において、医療、福祉、子育て、文化、交流等の生活利便施設の集積により、拠点機能の充実を図るとともに、安芸津港を海上拠点とするなどの交通機能を活かしながら、良好な住環境を形成します。
- 駅と港の近接性を活かし、拠点機能の充実を図ります。
- 空き家の有効活用、下水道等の基盤整備などにより、居住環境の向上を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 安芸津海風バスの運行など、市民生活を支える移動手段の確保・活性化を図ります。
- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



安芸津駅



安芸津海風バス

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機軸」。新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。

※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能、ないしはそれをつくる技術。

※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネット化。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

※4 スマート農業:ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業。

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 杜氏の里や北前船の基地など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



安芸津歴史民俗資料館

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 自然豊かな環境を活かし、創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 移住・定住に係る情報発信力の強化、コーディネート機能の向上を図ります。
- 県立豊田高等学校との連携による、地域の活性化の支援を図ります。
- 小学校跡地の活用を促進します。
- 国道185号安芸津バイパスの整備等を踏まえ、新たな仕事・交流機能の検討を含め、沿道における土地利用を促進し、地域の活性化を図ります。

交通ネットワークの強化

- 国道185号安芸津バイパス等の整備促進とともに、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス、航路等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。



地域体験ツアー
安芸津釣リスクール

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 三津大川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
- 高潮対策の推進に取り組みます。
- 防波堤や棧橋等の港湾施設の長期保全を行い、安芸津港の適切な維持管理に努めます。

総合的な医療体制の確立

- 県立安芸津病院の医療提供体制の維持・強化のため、県に耐震化の早期実現についての要望を継続します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

- 県立安芸津病院との連携による健康増進及び地域包括ケア推進体制の充実に努めます。
- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



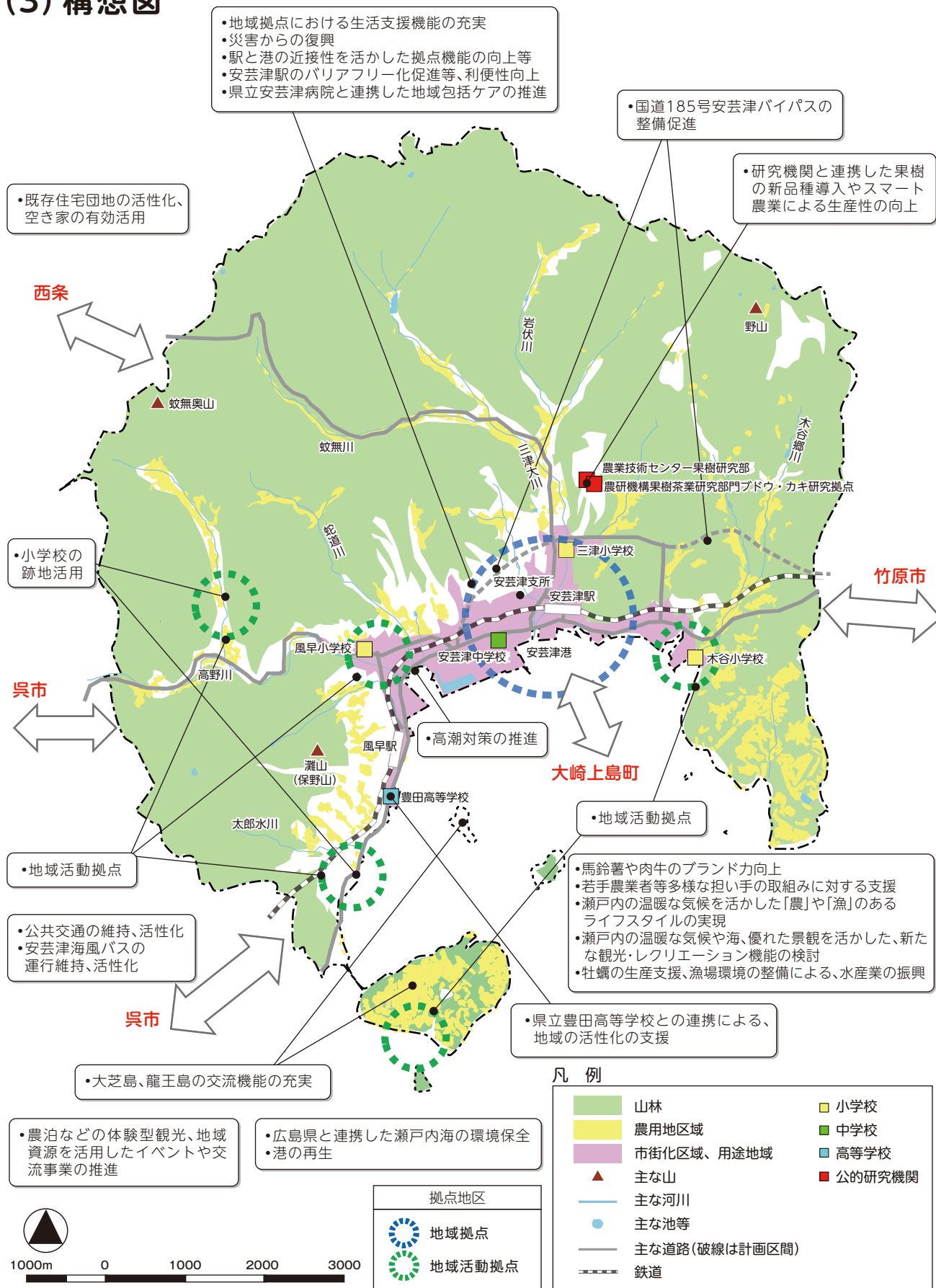
安芸津港



県立安芸津病院



(3) 構想図



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。